

[003] 九州大学農学部農場年報 : 第3号

<https://doi.org/10.15017/13213>

出版情報 : 九州大学農学部農場年報. 3, 2002-03. 九州大学農学部附属農場
バージョン :
権利関係 :



II. 農場運営

(1994.4-1996.3)

1. 庶務事項

人事

1998.4.1	転出	文部事務官	会計掛長	吉永保智	農学部へ配置換え
	転入	文部事務官	事務長	前田義信	福岡教育大学から転任
	転入	文部事務官	会計掛長	井上憲司	工学部等経理課経理掛 経理第三主任から昇任
	採用	文部技官	技術官補	田中さゆり	新規採用
	勤務命令	文部教官	研究部長	福山正隆	併任
	勤務命令	文部技官	技術長	花田信章	第二技術班長から
	勤務命令	文部技官	第二技術班長	竹下 繁	園芸技術主任から
	勤務命令	文部教官	作物・機械研究室長	望月俊宏	作物研究室長から
	勤務命令	文部技官	作物・機械研究班長	中川幸夫	作物研究班長から
	勤務命令	文部技官	作物・機械研究室	鳥飼芳秀	作物研究室から
	勤務命令	文部技官	作物・機械研究室	梶原良徳	作物研究室から
1999.2.1	転出	文部教官	教授(研究部長)	福山正隆	農学部へ配置換え
	勤務命令	文部教官	研究部長事務代理	中司 敬	
3.31	退職	非常勤職員	技能補佐員	内田哲朗	任期満了
4.1	転出	文部事務官	会計主任	児嶋義則	理学部等へ配置換え
	転入	文部事務官	会計主任	今村英次	経済学部から配置換え
	昇任	文部事務官		会計主任	黒瀬正秋 会計掛員より
	採用	非常勤職員	技能補佐員	渡辺 潤	新規採用
6.30	転出	文部教官	農場長	藤原 昇	任期満了
7.1	転入	文部教官	農場長	福山正隆	併任
8.1	転入	文部教官	教授	名田陽一	農水省九州農業試験場から 研究部長
	勤務命令	文部教官	助教授	中司 敬	研究部長事務代理を免ずる
3.31	定年退職	文部技官	技術長	花田信章	果樹研究室

農場協議会

1) 協議会委員

(任期 1997 年 7 月 1 日～1999 年 6 月 30 日)

農場長 藤原 昇 高原農業実験実習場長 増田 泰久

農学科 松尾英輔 農芸化学科 江頭和彦 農業工学科 高山正隆

畜産学科 岩元久雄 農政経済学科 川口雅正 演習林長 境 正紘

附属農場 武藤軍一郎 (1998 年 3 月 31 日まで)、中司敬、岡野香、若菜章、望月俊宏、中野豊、比良松道一

附属農場事務長 上田實（1998年3月31日まで）、前田義信（1998年4月1日より）

（任期1999年7月1日～2001年6月30日）

農場長 福山 正隆 高原農業実験実習場長 増田 泰久

農学科 松尾英輔 農芸化学科 江頭和彦 農業工学科 橋口公一

畜産学科 岩元久雄 農政経済学科 川口雅正 演習林長 今田盛生

附属農場 名田陽一（1999年8月1日より）、中司敬、岡野香、若菜章、望月俊宏、中野豊、比良松道一

附属農場事務長 前田義信（2000年3月31日まで）

学外者の見学・研修等

1998年度

原町農場

1998.10.28 鳥取大学農学部附属農場技官3名（研修）

1999. 3.17 三重大学生物資源学部附属教育研究施設技官3名（研修）

その他粕屋西小学校等 計1,684名

篠栗農場

北勢門幼稚園等 計198名

高原農業実験実習場

1998. 05.17 マッキー国際学園福岡校69名（研修）

1999年度

原町農場

2000. 2.24 宇都宮大学農学部附属農場技官3名（研修）

2000. 2.24 筑波大学研究協力部研究協力課農林技術センター事務官2名（研修）

2000. 3.21 弘前大学農学生命科学部附属農場事務官1名、技官1名（研修）

その他杉の子保育園等 計1,266名

篠栗農場

福岡教育大学等 計77名

海外渡航の記録

比良松 道一 台湾 1998年7月16日 - 7月22日（研修）

野生ユリの採種及び生態調査

台湾 1998年10月8日 - 10月11日（研修）

ユリ属植物の野生種の生態調査及び採集

尾野 喜孝 ドイツ連邦共和国 1999年3月6日 - 3月24日（研修）

地域の畜産の発展に関する調査

中司 敬 カナダ 1999年7月14日 - 7月26日（出張）
 ASAE/CSAE 国際会議
 およびカナダ国内の農業生産・流通施設等の現地調査研究
 連合王国 1999年9月11日 - 9月19日（出張）
 第2回英国地球技術協会地球環境工学会議
 および農業工学研究動向調査
 アメリカ合衆国、連合王国及びイタリア
 1999年10月1日 - 11月30日（出張）
 次世代農業機械のためのヒューマンインタフェースに関する研究

技官研修

1)農場研修会

- 1998 4 30 平成10年度事業計画検討会
 5 21 講演会「牛乳抗体による虫歯予防機構」古賀 敏比古歯学部予防歯科学教授
 6 15 講演会「環境ホルモンと人類の生存」長山 淳哉九大医療技術短大助教授
 11 5 見学研修 佐賀大学海浜台地生物生産研究センター，
 九州電力（株）農業電化試験場
 1999 1 28 講演会「生体防御論健全な生命を守る基盤」野本亀久雄九大生体防御医学研究所長
 3 11 研究発表会
 「実習内容改善の試み実験的要素を取り入れた実習の実施例」
 田中さゆり（作物研修室）
 「育成牛と経産牛の牛舎内および運動場での行動について」
 岡野 香（畜産研究室）
 「黒毛和種雌一産取肥育牛の発育特性に関する研究」
 内田哲朗（高原実習場）
 「黒毛和種雌一産取肥育牛の枝肉特性に関する研究」
 衛藤哲次（高原実習場）
 「う触抗原投与が乳牛の健康に及ぼす影響」
 松石貴裕（畜産研究室）
 4 19 平成11年度事業計画検討会
 10 25 見学研修 佐賀大学附属農場，果樹園
 11 18 講演会「アイガモ農法について」古野隆雄
 1999 1 27 講演会「食料・農業・農村問題の光と陰」秋元浩一農産機械工学教授
 3 10 研究発表会
 「水稻湛水播直播栽培における苗立ちと収量性」
 鳥飼芳秀（作物・機械研究室）
 「農場ホームページの制作」
 梶原良徳（作物・機械研究室）
 「乾燥処理汚泥供試畑におけるスーダングラスの栽培試験」
 泉清隆（畜産研究室）

「ヤギの伝来について」

松石貴裕（畜産研究室）

「黒毛和種雌牛の繁殖成績に及ぼすビタミン剤の影響」

衛藤哲次（高原実習場）

2. 会計事項

予算

事項	1998 年度（円）		1999 年度（円）	
	当初予算	追加予算	当初予算	追加予算
教員当積算校費	13,724,620		13,196,011	
普通庁費	584,725		584,725	
被服費	506		430	
自動車維持費	181,429		181,429	
農場経費	32,264,000	2,885,000	33,902,000	1,825,000
実習施設等設備費	0		872,000	
教育研究特別経費	854,604		555,432	
自賠責保険料	150,500		143,200	
合計	47,760,384	2,885,000	49,435,227	1,825,000

収入

1998 年度（単位：千円）

品目	作物	果樹	蔬菜・花卉	畜産	高原
玄米	4,105				
コムギ	502				
ダイズ	15				
タマネギ	12				
エダマメ	10				
ナシ		2			
リンゴ		23			
カボス		3			
ブドウ		364			
ミカン		785			
キウイ		5			
キンカン		18			
メロン			562		
鉢物			220		
セルリー			359		
アスパラガス			74		
牛乳				4,758	
肉牛および廃牛				241	7,574

卵				4	
バター				25	
計	4,644	1,200	1,215	5,028	7,574

1999 年度（単位：千円）

品目	作物	果樹	蔬菜・花卉	畜産	高原
玄米	3,351				
コムギ	1,495				
ダイズ	4				
アズキ	9				
ナシ		21			
リンゴ		86			
カボス		8			
ブドウ		590			
ミカン		587			
キウイ		11			
メロン			348		
鉢物			170		
セルリー			487		
牛乳				3,549	
肉牛および廃牛				512	4,048
卵				4	
バター				22	
計	4,859	1,303	1,005	4,087	4,048

主要設備および備品(1998-1999 年度)

1998 年度

品名	メーカー・型式等	品名	メーカー・型式等
パワーロールペーラー	ニューホランド RB1060	トラクタ	ニューホランド 46354WD-05
ソフトクリーム フリーザ	ホシザキ SF-8DA6-H	携帯用光合成装置・ 蒸散測定	小糸工業 CIRAS-1B
小型回転式 ミクロトーム	大和光機工業 PR-50NF		

1999 年度

品名	メーカー・型式等	品名	メーカー・型式等
田植機	キセキ PK 4370	蒸留水製造装置	アドバンテック GSH-500
乗用型トラクタ	クボタ KL25FQBMAP	自動コーティングマシン	ヤンマー YCT20
NBS-u ハウス		トラクタ	クボタ GB15BSMARF3
バルククーラー	オリオン BRA-60C	代かき同時直播機	ヤンマー SX-6000
超低温フリーザー	三洋電機 MDF-192	振とう培養機	高崎科学機械 TA-12R
食物繊維分析装置	Tecator 社ファイバーテック 1023 型ろ過モジュール		

科学研究費補助金

1998 年度

奨励研究 (A) 代表・新規

研究課題：タカサゴユリとテッポウユリの種分化の分子進化学および生理的検証.

研究者：比良松道一

研究経費：600,000 円

基盤研究 C(2) 代表・新規

研究課題：ツルマメを用いた耐湿性ダイズの作出に関する基礎研究

研究者：望月俊宏

研究経費：2,400,000 円

1999 年度

基盤研究 C(2) 代表・新規

研究課題：ユリにおける生態関連形質と分子マーカーの遺伝・連鎖分析および遺伝連鎖地図の構築

研究者：比良松道一

研究経費：2,100,000 円

基盤研究 C(2) 代表・新規

研究課題：自給飼料確保と放棄水田保全のための浮稲飼料化技術の開発

研究者：中野 豊

研究経費：2,700,000 円

基盤研究 C(2) 代表・継続

研究課題：ツルマメを用いた耐湿性ダイズの作出に関する基礎研究.

研究者：望月俊宏

研究経費：500,000 円

受託研究

1998 年度

研究題目：農業用電動作業機の要素技術に関する研究.

民間機関：九州電力株式会社 総合研究所

共同研究者：中司 敬

受託研究費：4,200,000 円

奨学寄付金

1998 年度

農学部附属農場研究資金

クボタ

2,900,000 円

プロレックス

2,200,000 円

新恵商店	500,000 円
藤原 昇	1,600,000 円

1999 年度

農学部附属農場研究資金	
科学飼料研究所	500,000 円
福山正隆	1,050,000 円
ユーリカ株式会社	300,000 円

3. 部門別運営状況

作物部門

作物・機械研究室

(1)生産概況

1998 年度

- 1)水稲：夢つくし、ヒノヒカリ及びレイホウ。研究用圃場の拡大ならびに虫害により収穫量は平年に比べ減少した。食管法改正にともない、昨年から政府米としての買い上げが停止し、さらに米価の下落により売上高が低下した。この傾向はさらに強まるものと考えられる。
- 2)小麦：品種はニシカゼコムギおよびチクゴイズミ。湿害により著しく減収した。
- 3)アズキ：大納言。
- 4)ダイズ：丹波黒。

ダイズ、アズキとも虫害により品質が悪く、アズキは出荷を見合わせた。他に、公開講座に合わせて枝豆を栽培し、余剰分を出荷した。

第1表 収入実績

品目	売り払い量(kg)	金額(千円)
玄米	19,980	4,105
小麦	3,750	502
黒豆	23 15	
枝豆 35 10		
合計	- 4,632	

1999 年度

- 1)水稲：品種は前年と同じ 夢つくし、ヒノヒカリ及びレイホウ。研究用圃場の拡大ならびに初夏の天候不良により収穫量は減少した。一層の米価の下落 (60kg:12,000-12,500 円) により売上高は著しく低下した。

2)小麦：品種はチクゴイズミ。1等で売り払い。

3)アズキ：大納言及び白アズキ

4)ダイズ：丹波黒。

第2表 収入実績

品目	売り払い量(kg)	金額(千円)
玄米	16,695	3,351
小麦	9,84	1,495
黒豆	7	4
小豆	17	9
合計	-	4,859

園芸部門

蔬菜・花卉研究室

1)生産概況

1998年度

蔬菜では、アスパラガス、メロン、セルリー、タマネギ、サツマイモを、花卉では、シクラメン、ユリなどを栽培し、実習および研究に利用した。

1999年度

蔬菜では、メロン、セルリーを、花卉では、シクラメン、ユリ、バラを栽培し、実習および研究に利用した。いずれの年度も概ね予定生産量に達した。

2)総括(1998-1999年度)

学部・大学院改組に伴うカリキュラムの変更により、学科(コース)によっては農場実習が必修科目から選択科目へと変更された。したがって、受講者数の増減を考慮した実習内容の改変が必要であった。

果樹研究室

1)生産概況

1998年度

春季がやや低温であり、また、雨量も成長期に多かったために、ブドウでは病害の発生が多く、やや品質不良で低収となった。篠栗・久山両町による猪の捕獲が継続されたことにより猪の食害は軽かった。

- (1) ウンシュウミカン：極早生は樹冠が拡大し、本年度も正常に着果させたが、裏年にあたり、収量は少なかった。興津早生は表年にあたり、生産高は前年より増加した。平均糖度は11～12°とかなり高かった。

- (2) ブドウ：黒痘病の大発生により、収量が減少した。

(3) ナ シ：胴枯れ病が進行して枯死する樹が多くなり、また、ヤガの被害が甚大であったために、ほとんど出荷できなかった。

(4) リンゴ：カラスや猪による食害は昨年度より多く、さらに、小鳥による食害も加わったために収量がかなり減少した。

1999 年度

ブドウでは豪雨による黒痘病の発生が多かったために、やや生産量が減少した。ウンシュウミカンでは平年の収穫高であった。篠栗・久山両町による猪捕獲は本年度も効果をあげ、猪による食害は軽かった。

(1) ウンシュウミカン：極早生は本年度も正常に着果させ、表年のため収量は多かった。興津早生は裏年にあたっていたが、収量の落ち込みは少なかった。しかし、多雨の影響でかいよう病・そうか病の大発生があり、商品価値は低下した。

(2) ブドウ：黒痘病の大発生により、収量がやや減少したが品質は良好であった。

(3) ナ シ：胴枯れ病が進行してかなりの樹が枯死し、また、豪雨による病害やヤガの被害のために、ほとんど出荷できなかった。

(4) リンゴ：防鳥ネットで完全被覆したので、鳥による食害はほぼ防止できた。しかし、カミキリムシの被害が進み、収量が低下した。

第 1 表 1998・1999 年度の作付け実績

種類	面積(a)	備考
カンキツ	99	
ブドウ	35	交配実生 5a
ナシ	57	品種保存 47a
カキ	118	品種保存
モモ	10	品種保存
スモモ	24	品種保存
リンゴ	20	
イチジク	12	品種保存
ウメ	14	幼木（4 年生）
ビワ	10	品種保存
キウイ	2	品種保存
花木類	8	品種保存
施設ブドウ	14	品種保存及び交配実生(ガラス簡易被覆)
カンキツ類	300	品種保存及び交配実生
防風樹	143	
計	856	

(2)総括 (1998・1999 年度)

農場実習はほぼ計画通りに行なうことが出来た。雨天時の実習では当研究室で育成した三倍体の試作を進めているトンネルハウスを活用した。大学院教育では博士課程2名、修士課程1名の論文指導を行い、大学では3年生1名の指導を行なった。また、大学院用のプレハブ研究棟(50m²)を設置した。遺伝資源に関してはブンタンを中心として下甑、阿久根、種子島等の探索を行なって在来種を多数収集した。20年来続いた圃場の整備はほぼ完了したが、晩霜害を受けやすいカキ園の一部に客土を行い、カンキツ遺伝分析用の圃場に改良した。圃場の管理に関しては、予算の減少や人出不足に呼応してなるべく省力化に努めた。

畜産部門

畜産研究室

1998 年度

- (1) 他の研究室への受託作業のない作業体制を確立することができた。イタリアンライグラスは生産状況は平年並であったが、天候不順で質的にやや不良。秋、冬の少雨で2月の収穫が皆無になった。トウモロコシはロールベール移行に伴い全廃した。スーダングラスは1番刈は平年並みであったが、早魃で再生が妨げられたため、2番刈収量が低下した。ファジービーンとスーダングラスの混播はスーダン単播と差のない収量が得られ、良好だった。
- (2) 乳牛は夏の暑さでダメージが大きかった。死産や母牛の出産時のダメージによる衰弱死があったため、出産時の管理体制の見直しを行った。体細胞などの乳質については、非常に良好な状態で推移している。依然、繁殖成績が芳しくないので発情前にビタミン剤の添加を行っている。トカラヤギは各種の実験に供試することができた

1999 年度

- (1) イタリアンライグラスは天候に恵まれ、良質の乾草を調製することができた。スーダングラスは台風や多雨の影響で湿害が発生し、収穫不能の圃場や雑草が多く質の低下を招いた。
- (2) 乳牛は雄の出生が多く、後継牛が不足している。飼料費節減のため、飼料内容を変更したが7月より乳蛋白が急激に低下した。改善策をとった結果、9月より改善された(給餌方法を2回/日を4回/日、飼料の見直し、補助飼料の添加など)。体細胞などの乳質については、非常に良好な状態で推移している。トカラヤギは各種の実験に供試することができた。

動物生産部門

1998 年度

1) 飼料調製

天候に恵まれ、一番草は良質牧乾草として1000梱包(3.9ha、平均12.0KG)、二番草はロールベールサイレージとして100個(平均230KG)を越冬用として調製・収納した。三番草は妊娠牛や、特に母子牛の冬季放牧用に供した。

2) 飼養牛頭数

	1999 年 4 月 1 日現在	2000 年 4 月 1 日現在
経産牛	21	20
未経産牛	6	5
雌哺乳牛	1	3
去勢肥育牛	8	7
去勢育成牛	6	5
雄哺乳牛	2	3
合計	43 頭	43 頭

3) 飼養牛の出荷頭数および収入

(1) 肥育牛出荷 10 頭 販売価格 666 万 3 千円

(2) 老廃牛 1 頭 販売価格 10 万 7 千円

合計 671 万円

4) 施設および機械

(1) 井戸設置

(2) ロールベール、ラッピングマシーン、グリッパー、飼料攪拌機購入

1999 年度

1) 飼料調製

天候には恵まれなかったものの、一番草は良質牧乾草として 700 梱包（前年比 0.7）平均 15KG（同 1.25）、二番草以降は長雨にあいロールベールサイレージとして 100 個（前年比 1.0）、平均 250KG（同 1.09）を越冬用として調製・収納した。三番草は妊娠牛や、特に母子牛の冬季放牧用に供し、冬季における飼養管理の省力化および子牛の好発育により低コスト生産に寄与した。

2) 飼養牛頭数

	1999 年 4 月 1 日現在	2000 年 3 月 30 日現在
経産牛	20	19
未経産牛	5	13
雌哺乳牛	3	2
去勢肥育牛	7	8
去勢育成牛	5	3
雄哺乳牛	3	5
合計	43 頭	50 頭

3) 飼養牛の出荷頭数および収入

(1) 肥育牛出荷 4 頭 販売価格 273 万 3 千円

(2) 子牛 3 頭出荷 販売価格 117 万 6 千円

(3) 老廃牛 1 頭 販売価格 6 万 3 千円

合計 397 万円（前年比：0.58）

4) 施設および機械

- (1) 設備修理・更新：シャッター修理
- (2) 備品購入：冷凍庫、ファックス等